



地域、学生、NPOの協働による 福祉のまちづくり

福祉マップ調査活動を通して

NPO法人あらた
池田正樹



特定非営利活動法人あらた

ボランティア活動

福祉マップ
車椅子バスケット
ふれあいサロン
認知症疑似体験

たすけあい活動

一時介護・一時保育
福祉移動サービス
訪問活動
外出支援
話し相手
配食サービス

ヘルパー養成講座

介護・支援事業

高齢者デイサービス
認知症高齢者グループホーム
障害者デイサービス
心身障害者小規模作業所
居宅介護支援事業所
訪問介護事業所
障害者グループホーム
障害者ケアホーム
酒田市タイムケア事業

障害のある人もない人も胸襟を開いてふれあう街づくり

- ボランティアネットワークの構築
- 障害者理解(心のバリアフリー)
- 青少年の健全育成
- 福祉住環境の改善(ユニバーサルデザイン)
- 情報提供(ユニバーサルなホームページ)
- 障害者の移動保障(基本的人権)
- ボランティア活動への導入



ボランティアネットワークの構築

- 学生(大学コンソーシアムやまがた)
- 行政
- 市民(ボランティア団体・社会福祉協議会等)
- 障害者団体(脊髄損傷者連合会、身障者福祉協会など)



調査する

- ウォークラリーをする
- 実際に車椅子に乗って、街を歩く
- 実際に車椅子に乗って、買い物をする
- 実際に車椅子に乗って、食事をする
- 実際に車椅子に乗って、トイレを使う
- 実際に車椅子に乗って、建物に入る
- 段差やスロープなどを体験する



ユニバーサルなホームページ

だれでもが利用できる情報媒体

- シンプルなレイアウト
- クリックしやすい大きいボタン
- 視覚障害者用音声パソコン対応
- 音声パソコンが読みとりやすい正確な記述
- 印刷しやすいフレームを使わない仕様





調査表

福祉マップ調査票

調査施設名		記入者名	調査日
車椅子用駐車について			
出入り口へのアプローチ			
トイレについて			
車椅子貸し出し			
エレベーター・階段昇降機等			
点字ブロック・表示			
要介助者への対応について			
介助犬が入れるか			
ベンチの有無			
通路の幅			
手すりの設置場所			
その他バリアフリー設備			
特記事項			



障害者の移動保障を目指して

- 県内各地の情報を繋ぐ
- 道路で街を繋ぐ
- 既存の福祉マップとリンクする
- 改善できる所を提案する
- 人と人を繋ぐ





楽しいボランティア

- いろいろな人と出会うことができる
- 様々な活動ができる
- 参加した活動が形になる
- 社会の役に立てる
- みんなが仲良くできる街になる



平成17年度東北公益文科大学 NPO支援事業(お出かけ編)

- 17年9月 マップ作成に関する会議
- 10月 車イス体験・バスケットボール交流
- 第1回福祉マップ調査
(旧酒田市・平田町・松山町・八幡町)
- 11月 第2回福祉マップ調査
(旧酒田市・平田町・松山町)
- 12月 ページ作成検討会
- 18年3月 東北公益文科大学NPO支援事業
報告会



平成18年度山形県NPO支援 事業

- 18年 7月30日 酒田市調査 参加者51名
- 18年 9月23日 三川町調査 参加者20名
- 18年10月15日 鶴岡市調査 参加者92名
- 18年10月22日 米沢市調査 参加者36名
- 18年10月28日 新庄市調査 参加者27名
- 18年10月29日 庄内町調査 参加者37名
- 18年11月11日 遊佐町調査(予定)
- 18年11月14日 新庄市調査2回目(予定)





今年度の活動

■ 平成18年度山形県NPO協働事業

ボランティア・市民活動団体等が自ら企画した事業を県に提案し、相互に議論・提案し、協働できる事業の構築・推進を図り、NPOと行政とが適切な役割分担のもと、協働して公共的サービスを提供していくことにより、真のパートナーシップによる協働を推進しようというもの。

■ 今までの活動をふまえて

昭和62年「ボランティアサークルあらた」が福祉マップを作るために発足。その後20年に渡り、毎年福祉マップ調査活動を展開している。今まで構築したネットワークや、調査の手法を元に新たに活動の範囲を広げていく。





重要性・先進性

- 大学、行政、市民、障害者等の参加を得、ボランティアネットワークが構築できる。
- 車椅子介助の体験・車椅子バスケットボール体験を通し、楽しみながら平等な人間関係を学習できる。
- 障害者と健常者の協働活動により障害者の理解や支援の学習ができ、心のバリアフリーの実現につながる。
- 障害者が調査に参加することで実際の利用者の視点でバリアフリーな街づくり、住環境整備に必要なニーズを見つけだすことができる。
- 県内のマップができることで広域的効率的な情報が公開され、誰でもが街に出やすくなる。
- 障害者とのマップづくり、市民参加の街づくりの活動として、ボランティア活動が理解され参加の機会となる。



公益のまちづくりを目指して

福祉マップに参加することで、自分も人も街も共に育つ

この活動は「自分たちの街は自分たちでつくっていく」という思いを形にするものである。一人ひとりが当事者意識を持って自立した市民として街や人に関わっていくことができる。

多様な価値観や多様な人々との出会い、そこで展開する多様な活動を通して、個人や組織として相互に高め合っていくことができる活動である。

このように、福祉マップ調査を通して市民の全員参加の元、公益の街づくりが行われることを目指す。